

RIKEN EVENING SEMINAR

理研イブニングセミナー (東京開催)

第69回 シリーズ①

7月17日(水) 17:30~18:40

発表者: **加藤 紀夫** チームリーダー

バトンゾーン研究推進プログラム
植物新育種技術研究チーム

「作物育種におけるゲノム編集技術の利用と
将来展望」

第72回 シリーズ②

9月18日(水) 17:30~18:40

発表者: **市橋 泰範** チームリーダー

バイオリソース研究センター
植物-微生物共生研究開発チーム

「作物と土と微生物の関係について
~科学の力で農業環境の見える化~」

第74回 シリーズ③

10月16日(水) 17:30~18:40

発表者: **岩瀬 哲** 研究員

環境資源科学研究センター
細胞機能研究チーム

「植物組織培養の壁を乗り越える
~分子アプローチによる品種改良、量産、有用物質生産~」

【シリーズ企画】

サステイナブルな社会に向けた 植物科学のトレンド

植物は私たちにとって非常に身近な存在であり、SDGsのいくつかの目標にも深く関与しています。また、植物科学における研究成果の利活用の一翼を担ってきた企業でも、従来取り組んできた研究領域を超える新しい領域への展開の動きがあります。このように、植物科学の進展に対する期待は、昨今より高まっています。今回のセミナーでは、サステイナブルな社会に向け今後貢献が期待されている3つの研究分野、マイクロバイオーム、エピジェネシス、ゲノム編集の研究者の夢をお伝えし、産業界と理研との新たな接点を探りたいと思います。

日本たばこ産業株式会社
植物イノベーションセンター
主任研究員 加藤 紀夫

【会場】

理化学研究所 東京事務所
東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋一丁目
三井ビルディング 15階



【お申込み】

理研 イブニングセミナー事務局 担当: 米野

Email: : evening-seminar@riken.jp
件名を「〇/〇 理研イブニングセミナー参加申込」とし、
お名前・ご所属・連絡先アドレスをご記入のうえ、
メールでお手続きください。

セミナー詳細は裏面をご覧ください

<主催> 理化学研究所 イノベーション事業本部
健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム

第69回 シリーズ①

7月17日 (水) 17:30~18:40



発表者：**加藤 紀夫**

チームリーダー

バトンゾーン研究推進プログラム
植物新育種技術研究チーム

研究チームの
紹介ページ⇒



「作物育種におけるゲノム編集技術 の利用と将来展望」

近年ゲノム編集技術が急速に進展し、関係各省庁が最近その対応方針を決定したことを受け、今後作物育種においてもゲノム編集の利用が増加するものと思われます。その一方、植物で効率的にゲノム編集体を得るためには、組織培養における種、品種間差の克服や、細胞への物質導入効率の向上など、今後技術開発が必要な課題が残っています。

本セミナーでは、植物受精卵を利用したゲノム編集技術の確立に向けた取り組みを紹介し、今後の展開について議論したいと思います。

第72回 シリーズ②

9月18日 (水) 17:30~18:40



発表者：**市橋 泰範**

チームリーダー

バイオリソース研究センター
植物-微生物共生研究開発チーム

研究チームの
紹介ページ⇒



「作物と土と微生物の関係について ～科学の力で農業環境の見える化～」

人類は緑の革命により人口増加を支える食料供給を実現した一方、農地への過剰な施肥により環境汚染や土壌の劣化を招いてしまいました。そこで私たちは、植物-微生物-土壌の農業環境のバランスを整え、持続的な作物生産を可能とする環境共存型の新しい農業を日本発で実現させることを目指しています。

本セミナーでは「科学の力で農業環境の見える化」する研究の一例を中心に、現在進めている国家プロジェクトの概要を紹介します。

第74回 シリーズ③

10月16日 (水) 17:30~18:40



発表者：**岩瀬 哲**

研究員

環境資源科学研究センター
細胞機能研究チーム

研究チームの
紹介ページ⇒



「植物組織培養の壁を乗り越える ～分子アプローチによる品種改良、量産、有用物質生産～」

植物組織培養は、品種改良、量産、有用物質生産等植物バイオを支える根幹技術であり、これまで私たちの暮らしを豊かにしてきましたが、種々の「壁」により適用が困難な植物も多く存在します。世界的な環境問題、食料問題に直面する現在、植物の役割は益々重要になってきており、組織培養技術の更なる発展と普遍化が必須です。

本セミナーでは、演者らが進めている転写因子やエピゲノムからのアプローチをはじめ、近年行われている様々なアプローチを紹介し新潮流を後押しする契機を作ります。

